

正義にかなう福祉権保障 —包摂社会のための共存プロセスへ—

社会福祉学科 福祉政策系 沢田日菜

本研究は、異なる価値観をもつ人々の自律・自由な生活を保障しながらも、そのことが自己責任としての切り捨てや排除を生み出すのではなく、包摂を伴う形で福祉の権利が保障される社会を目指すことを目的とした。そのため、多様な人々の共存に適した統治の仕組みについて、主として政治哲学的検討を行った。

その結果、人間には「意思の重層性」があり、「考え方のモード」(ジョシュア・グリーンの言うオートモード[道徳的直観]/マニュアルモード[合理的理性])を使い分けていけることを根拠に、「利益」「情念」「理性」の軸を用いて話し合うという、「包摂のための共存プロセス」を提唱するに至った。特に「情念」について、人々の自由な感情の発信を適切に熟議的枠組みの中に位置づけ、人々の他者性・共同存在性を反映させることで、形骸的でない包摂・合意を目指せるのではないかと考えた。このプロセスは、自由で多様な人々の間にも互惠性を生じ、存在を真に承認し合える包摂社会への展開を促す可能性を持つと考える。